

## 2023年3月期第1四半期決算説明会 音声・質疑応答

2022年7月29日  
株式会社アイシン

音声データ リンク先：

[https://www.aisin.com/jp/investors/settlement/uploads/fy2023\\_q1\\_presentation.mp3](https://www.aisin.com/jp/investors/settlement/uploads/fy2023_q1_presentation.mp3)

**Q1. 通期の見通しの据え置きについて、中国の減税や、顧客への原材料価格転嫁はある程度見通せる状態になってきていると思う。為替も含めて、通期で上方修正する可能性は？**

A1. 上振れ要素があるのではないかという観点については、中国の減税は期待できると思うが、規模やタイミングはもう少し見極める必要がある。原材料について、トヨタは下期の合理化要請を見送るということだと思うが、原価低減活動と原材料価格の上昇分の価格反映とは別と捉えている。特に中小仕入先の負担増をしっかりと確認し、カーメーカーに訴求しているところであり、2Qには目途付けをしたい。3か月前と比べて何か大きく変わったということはなく、通期予想を見直さなかった。

**SQ1. 1Qの固定費を見ると通期予想に対して進捗が早くコスト増に見えるが、計画通りなのか？**

SA1. 進捗が早いわけではなく、オンライン。特別膨らむということはない。

**Q2. 電動駆動ユニットの拡販の状況について、25年度以降の受注状況にアップデートは有るか？**

A2. 25年まではトヨタ自動車向けが主になっておりそれは変わらない。27年に出す予定の第3世代 eAxle は圧倒的な小型化と高効率化およびコスト競争力でも差別化できると考えており、他社向けの拡販につなげていきたい。

**SQ2. モーターやギア単品での受注の可能性は？**

SA2. 単品で買いたい顧客に対しては、システムの良さを伝えていく。多くのメーカーが参入しているが、全体システムで提案していく。

**Q3. 生産変動の先行きをどう見ているか？トヨタ生産台数や中国、欧州向けの A/T は3か月前と比べて安定してきているか？**

A3. 上海のロックダウン影響は想定外であったが、半導体不足は昨年1年間生産変動に苦労したことを考えればだいぶ安定してきた。落雷や三河地区の工業用水制限など単発の小さな稼働低下は今期も色々あったが、昨年9月のような急減産は起きにくくなっている。中国民族系は在庫状況、需要状況ともに大きな変化はなく、引き続き注視していく。欧州系は、VW など OEM が確保できた半導体をどの車種に充てるかによって当社の仕事量に影響がある。

**Q4. 生産変動への対応は具体的にはどういった取り組みか？採算性向上にもつながるのか？**

A4. 減産ロスの抑制が大きい。得意先や仕入先とのコミュニケーションを密にすることで、生産変動に対して人の手配などこれまでより柔軟にできるようになってきた。

**SQ4. トヨタ外も同様にコミュニケーションをとれているか？**

SA4. トヨタ外ともコミュニケーションをとっているが、トヨタは他社に比べてタイムリーに情報提供があるため、より対応しやすい。

**Q5. 1Q実績の66億円は当初の計画に対してはどうだったのか？いくらを見込んでいたのか？**

A5. 上海ロックダウン影響による売上減があったが、円安効果に加え、売上減少に合わせた固定費の見直しをした結果が66億円。

**SQ5. 中国の顧客が落ちた影響はどのセグメントが大きいのか？**

SA5. 生産の分担として現地はロックダウンしても生産量を一定とし日本をバッファーとした。

**Q6. 電動ユニットについても、A/Tと同様トヨタ内製と生産を分担にするのか？**

A6. 完成車メーカーは電池の生産に資源投入が必要なこともあり、当社が駆動ユニットで競争力を示せば、A/T以上に任せていただける可能性があると考えている。

**SQ6. 電動ユニットを拡販するためにしっかり投資していくということか？**

SA6. そう。ただし、一定量残るA/Tの生産を誰かがやらなければならない。そういう意味ではすべて受け持って新規投資をせず既存設備を効率的に使って生産するということもありうる。

**Q7. 1Qの利益増減の正味売上増減▲220は、説明いただいた為替影響除く正味の売上減▲400に対して大きいなぜか？**

A7. 売上面では為替影響の他に、前期からの材料建値の改訂などによる増も入っており正味の売上減はさらに大きい。また、コスト面では減産ロスも含まれている。それらを加味すれば▲220は特段大きくはない。

**Q8. 通期計画据え置きについて、現時点で達成可能だというメッセージでよいのか？**

A8. 2Q以降に挽回生産がなくても今の円安水準が続けば十分達成可能。原材料はアルミなど市況が落ち着いてきたので、価格反映の目途を2Qまでにつけたいと考えている。まだ4月から3か月しか経過していないので、生産台数の動向を見ながら、上方修正するならもう少し確度が高くなってからにしたい。今の1900億は前年比で増益を意識した目標値であり、達成困難な局面では必ず手を打っていくということになる。

以上